



報道発表資料の配付日時 1月6日(木) 15時00分

発表項目 (行事名)	令和3年度(2021年度)第1回タンチョウ越冬分布調査の結果について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
	令和3年度(2021年度)第1回タンチョウ越冬分布調査を次のとおり実施しました。		
	1 調査実施日時等		
		令和3年度(2021年度)第1回	(参考) 令和2年度(2020年度)第1回
	調査日時	12月3日(金) 8:50～9:10	12月4日(金) 8:50～9:10
	調査区域	9 振興局41市町村	9 振興局41市町村
	調査箇所	計349箇所(野生346箇所)	計324箇所(野生321箇所)
	調査協力者	小・中学生など計418人	小・中学生など計441人
	2 タンチョウ確認羽数 (単位:羽)		
	令和3年度 (2021年度) 第1回	合計:937【成鳥:829、幼鳥:72、不明:0、飼育個体:36】 うち野生個体:901(釧路:724、十勝:135、根室:15、ホ-ツ:9、日高:10、 胆振:3、空知:3、石狩:2)	
	令和2年度 (2020年度) 第1回	合計:1,097【成鳥:859、幼鳥:139、不明:61、飼育個体:38】 うち野生個体:1,059(釧路:864、十勝:142、根室:37、ホ-ツ:5、 胆振:8、空知:3)	
	3 調査結果に対する有識者(正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)の コメント概要		
	○ 確認羽数について、前年同期より158羽(野生個体)少ない。		
	○ 特に釧路管内で大きく減少しているが、調査日迄の気温が高く、給餌場以外の人目につきにくいところに広く分散していた可能性あり。		
	○ 分布について、新たに石狩管内で確認され、道央への分布拡大が徐々に進みつつある証とみてよい。		
	○ 個別数増加に伴い分布域を広げつつあり、住民、児童・生徒等の調査参加を広く呼びかけたい。		
参 考	今年度第2回目の調査は令和4年(2022年)1月25日(火)に実施する予定です。		
報道(取材) に当たって のお願い	第1回調査では、地元の小・中学校の児童生徒をはじめ多くの方々の御協力を いただいております。 また、平成29年度から北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会 社(JAL)と協働で調査を実施しておりますので、積極的な報道をお願いします。		
他のクラブ との関係	同時配付		
	同時レク		
担 当 (連絡先)	環境生活部環境局自然環境課企画調整係 担当:橋本(ダイヤル:011-204-5987 又は 代表:011-231-4111 内線24-389) 日高振興局 環境生活課 課長 宮川 真人(直通0146-22-9250) 自然環境係長 瀧本 淳徳(直通0146-22-9254)		
	※ 個別の調査内容については、次の(総合)振興局までお問い合わせ願います。		
	区 分	電話番号	区 分
	空知総合振興局	0126-20-0043	ホ-ツ総合振興局
	石狩振興局	011-204-5824	十勝総合振興局
	胆振総合振興局	0143-24-9577	釧路総合振興局
	日高振興局	0146-22-9254	根室振興局
	宗谷総合振興局	0162-33-2922	
			電話番号
			0152-41-0630
			0155-26-9028
			0154-43-9154
			0153-23-6823

令和3年度(2021年度)第1回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的に、地元小・中学校や関係機関等のご協力のもと、調査の基礎的な手法やタンチョウ保護の歴史について学ぶことができるよう調査を進め、見られた場所、個体数を記録しました。

2 調査日時

令和3年(2021年)12月3日(金) 午前8時50分～9時10分

3 調査区域及び調査箇所

- (1) 調査区域 9(総合)振興局、41市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域
 (2) 調査箇所 合計349箇所

○調査地点所在市町村数の推移

(市町村)

振興局	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	8		8	8	8	8
十勝	11		11	7	11	7
根室	4		4	3	4	3
オホーツク	5		5	4	4	3
宗谷	4		3	-	4	-
日高	2		2	3	2	2
胆振	4		4	3	4	2
空知	2		1	1	3	1
石狩	1		3	1	-	-
留萌	-		-	-	1	-
合計	41		41	30	41	26

○調査箇所数の推移

(箇所)

振興局	令和3年度		令和2年度		令和元年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	202		192	173	174	143
十勝	78		64	58	71	38
根室	19		21	16	21	16
オホーツク	15		15	8	14	7
宗谷	6		6	-	4	-
日高	5		6	8	6	7
胆振	13		14	9	13	8
空知	8		2	2	9	1
石狩	3		4	1	-	-
留萌	-		-	-	1	-
合計	349		324	275	313	220

4 調査主体及び調査協力機関等

- (1) 調査主体
北海道(環境省委託)
- (2) 調査協力機関等
市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、小・中学校、日本航空株式会社、タンチョウ給餌人など

○調査協力者数

振興局	総計 (人数)	内 訳						教職員	一般
		小学校		中学校		(小計)			
		校数	児童数	校数	生徒数	校数	児童・生徒		
釧路	318	9	35	7	94	16	129	57	132
十勝	22								22
根室	21								21
オホーツク	0								0
宗谷	3								3
日高	3								3
胆振	8								8
空知	39	1	35			1	35	2	2
石狩	4								4
合計	418	10	70	7	94	17	164	59	195

※本庁、振興局職員を除く。

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和3年度第1回				令和3年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計				
釧路	666	58	0	724				
十勝	126	9	0	135				
根室	14	1	0	15				
オホーツク	8	1	0	9				
宗谷	0	0	0	0				
日高	8	2	0	10				
胆振	3	0	0	3				
空知	2	1	0	3				
石狩	2	0	0	2				
小計	829	72	0	901				
飼育個体	35	1	0	36				
合計	864	73	0	937				

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	令和2年度第1回				令和2年度第2回				令和元年度第1回				令和元年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	693	110	61	864	1,240	129	23	1,392	864	96	78	1,038	1,144	95	7	1,246
十勝	126	16	0	142	44	6	0	50	114	24	0	138	50	7	0	57
根室	28	9	0	37	23	4	0	27	21	3	0	24	23	2	0	25
オホーツク	4	1	0	5	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0
宗谷	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	0	0	0	0	5	1	0	6	6	0	0	6	3	0	0	3
胆振	6	2	0	8	2	1	0	3	2	0	0	2	2	0	0	2
空知	2	1	0	3	0	0	0	-	2	0	0	2	-	-	-	-
留萌	0	0	0	0	0	0	0	-	1	0	0	1	-	-	-	-
小計	859	139	61	1,059	1,314	141	23	1,478	1,014	123	78	1,215	1,222	104	7	1,333
飼育個体	36	2	0	38	36	2	0	38	36	0	0	36	37	0	0	37
合計	895	141	61	1,097	1,350	143	23	1,516	1,050	123	78	1,251	1,259	104	7	1,370

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 調査当日の気象状況

○令和3年度第1回調査（令和3年12月3日 午前9時）

	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	曇	9.9℃	南南西	12.8 m/s	釧路地方気象台
十勝	みぞれ	1.3℃	西北西	1.3 m/s	帯広測候所
根室	晴	9.2℃	南	13.3 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	8.2℃	南南西	7.5 m/s	網走地方気象台
宗谷	雨	3.1℃	北北西	1.5 m/s	稚内地方気象台
日高	雨	8.8℃	南	8.2 m/s	室蘭地方気象台
胆振	曇	9.1℃	南	7.6 m/s	室蘭地方気象台
空知	雨	5.8℃	南南東	3.1 m/s	札幌管区気象台
石狩	雨	7.7℃	南	9.8 m/s	札幌管区気象台

※<参考>令和2年度第1回調査（令和2年12月4日 午前9時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	晴	-2.3℃	北東	2.1 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	0.6℃	東	1.5 m/s	帯広測候所
根室	晴	0.0℃	西北西	6.2 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-3.1℃	南西	2.4 m/s	網走地方気象台
宗谷	雪	-2.9℃	西北西	3.1 m/s	稚内地方気象台
日高	晴	-0.6℃	北	1.9 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-0.6℃	北西	1.8 m/s	室蘭地方気象台
空知	晴	-1.2℃	南	1.4 m/s	札幌管区気象台
石狩	晴	-1.8℃	南西	0.9 m/s	札幌管区気象台

※<参考>令和元年度第1回調査（令和元年12月5日 午前9時）

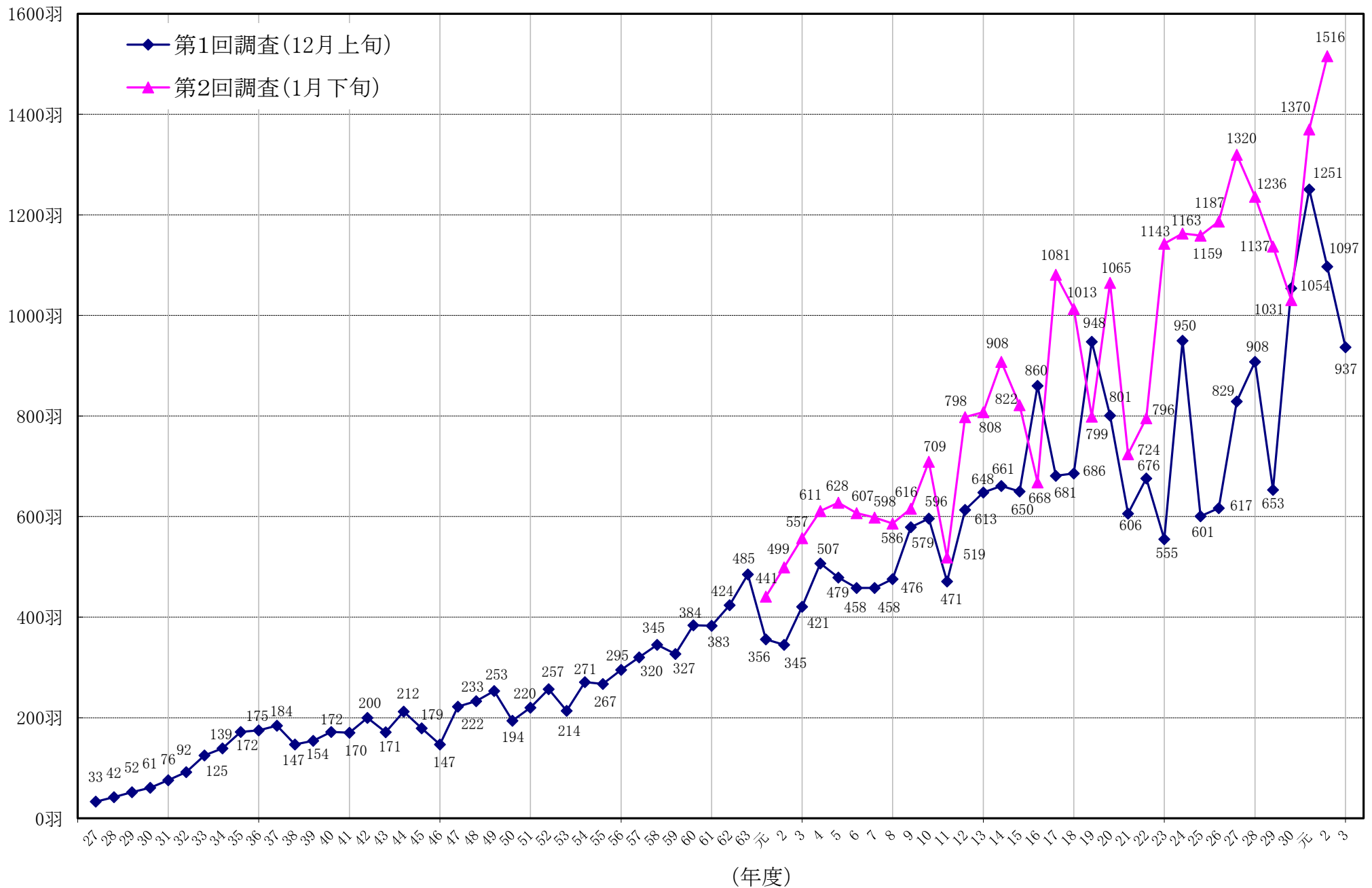
振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	快晴	-2.0℃	西	6.2 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-2.7℃	西北西	4.7 m/s	帯広測候所
根室	晴	-2.5℃	西南西	7.1 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-2.3℃	西	5.0 m/s	網走地方気象台
宗谷	曇	-3.6℃	西北西	3.5 m/s	稚内地方気象台
日高	晴	-3.3℃	北西	3.1 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-3.0℃	北北西	3.9 m/s	室蘭地方気象台
空知	晴	-5.1℃	南南東	1.7 m/s	札幌管区気象台
留萌	雪	-2.8℃	西北西	9.2 m/s	旭川地方気象台

7 タンチョウ確認羽数（市町村別）

（羽）

市町村	令和3年度第1回				令和3年度第2回
	成鳥	幼鳥	不明	計	
釧路	釧路市	43	3	0	46
	釧路市阿寒町	74	8	0	82
	釧路市音別町	83	3	0	86
	釧路町	2	0	0	2
	厚岸町	21	3	0	24
	浜中町	22	2	0	24
	弟子屈町	7	0	0	7
	標茶町	110	8	0	118
	鶴居村	291	29	0	320
	白糠町	13	2	0	15
十勝	大樹町	63	4	0	67
	広尾町	0	0	0	0
	幕別町	12	2	0	14
	池田町	5	0	0	5
	豊頃町	17	2	0	19
	浦幌町	19	0	0	19
	音更町	3	0	0	3
	上士幌町	2	1	0	3
	足寄町	2	0	0	2
	陸別町	3	0	0	3
	本別町	0	0	0	0
	根室	0	0	0	0
根室	別海町	6	0	0	6
	標津町	2	1	0	3
	中標津町	6	0	0	6
	網走市	2	0	0	2
オホーツク	小清水町	2	0	0	2
	斜里町	0	0	0	0
	大空町	4	1	0	5
	美幌町	0	0	0	0
	豊富町	0	0	0	0
宗谷	浜頓別町	0	0	0	0
	枝幸町	0	0	0	0
	幌延町	0	0	0	0
	日高	5	2	0	7
日高	平取町	3	0	0	3
	胆振	1	0	0	1
胆振	厚真町	0	0	0	0
	安平町	0	0	0	0
	苫小牧市	2	0	0	2
	空知	2	1	0	3
空知	栗山町	0	0	0	0
	石狩	2	0	0	2
石狩	千歳市	2	0	0	2
小計		829	72	0	901
飼育個体		35	1	0	36
合計		864	73	0	937

タンチョウ越冬分布調査（生息状況一斉調査）結果の推移グラフ（飼育個体含む）



令和3年12月3日実施のタンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

今年12月3日に行われた令和3年度第1回タンチョウ越冬分布調査結果について、これまでと同様に、動物園および類似施設の飼育個体を除いた野生個体のみを対象として、コメントを記しておく。

I. 分布

A) 今年の状況

前年同様十勝、釧路、根室、オホーツク、宗谷、日高、胆振、空知、石狩の9振興局（以下振興局を省略）管内で調査が行われ、市町村としては5(7)市（以下カッコ内は前年の数値・記載）、35(33)町、1村の計41自治体である。この自治体の中に346(321)ヵ所の調査地区を設け、その141地区・40.8%(150地区・46.7%)でタンチョウが目撃されたが、宗谷(宗谷、日高、石狩)管内だけ記録がない。結局、タンチョウが目撃されたのは4(3)市、24(20)町、1(1)村で、対象とされた自治体の70.7%(58.5%)で生息が確認された。

管内で確認地区数が最も多かったのは釧路の89(110)ヵ所で、全確認地区数に対する割合は63.1%(73.3%)、次いで十勝37(24)ヵ所で26.2%(16.0%)、根室5(10)ヵ所で3.5%(6.7%)の順で、この3者で全体の93.0%(96.0%)を占めた。また、市町村別では鶴居村が最も多い38(34)地区で、全確認地区数の27.0%(22.7%)を占め、前年最も多かった釧路市が24(45)地区で17.0%(30.0%)と順位が鶴居村と逆転した。次いで、釧路の標茶町が10(12)地区で7.1%(8.0%)、十勝管内の大樹町が8(6)地区で5.7%(4.0%)となる。

B) 前年（令和2年）との比較と今年の特徴

タンチョウの生息が確認された振興局数は昨年が6局、一昨年が8局であるが、何れも偶発的な事情があり、実質は両年とも7局とみなせる。これにたいし、今年は新たに石狩地方が加わって確実に8振興局内での生息が記録され、道央への分布拡大が徐々に進みつつある証とみてよい。なお、調査した9振興局管内で唯一生息確認の無い宗谷管内でも、近年繁殖番いの増加が進んでおり、将来的に越冬個体の出現も想定される。

分布の特徴を得る手がかりの一つとして、年ごとの調査地区数と確認地区数を比べておこう。今年の調査区数は上記のように昨年より25ヵ所多く、逆にタンチョウが確認されたのは昨年より9ヶ所少ない。したがって、今年の確認地区数は調査地区数の40.8%を示し、昨年の46.7%より5.9ポイントも低い。そのため、分布範囲がやや狭くなった印象を与えるが、統計学的には両年で差があるとまで言えない。

ただ、調査区数を増やしたにもかかわらず、タンチョウを見つけた区数が少なかったのは、釧路市阿寒町での大幅な確認地区数減少が関わっている。阿寒町では昨年34ヵ所で調査を行い、27ヵ所で確認されたが、今年は32ヵ所の調査に対し14ヵ所の確認に留まった。昨年の確認割合79.4%に対し、今年は43.8%

に過ぎないし、釧路市内や隣接する釧路町なども確認地区数は前年より少ない。恐らく、気候的条件等（次項B参照）により広く分散した個体を記録する調査地区設定が、十分できなかつたのが原因であろう。

それでも、次項で述べる個体数が、確認地区数の減少に見合うほど今年は少なくなっていない点や、釧路市桜田地区のように前年4羽だったのに、今年はほぼ8倍の31羽が集中していた地区などもあり、年々の地域における採餌条件の変動が、地域内の確認個所数の変化に関わる点も考慮する必要がある。

II. 羽数

A) 今回の記録羽数

今年生まれの幼鳥72羽(139羽)（以下カッコ内は前年の数値）を含み総数901羽(1,059羽)が観察された。管内別羽数は配布資料の如くで、管内の割合は多い順に釧路80.4%(81.6%)、十勝15.0%(13.4%)、根室1.7%(3.5%)、日高1.1%(0%)、オホーツク1.0%(0.5%)、胆振0.3%(0.8%)、空知0.3%(0.3%)、石狩0.2%(0%)となり、釧路、十勝、根室の3管内で全体の97.1%(98.5%)を占める。

記録された羽数の多い順に10位までの市町村を挙げると、鶴居村の320(386)羽を筆頭に、次は阿寒町と音別町を含む釧路市214(256)羽、標茶町118(121)羽、大樹町67(80)羽、浜中町24(43)羽、厚岸町24(20)羽、豊頃町19(21)羽、浦幌町19(15)羽、白糠町15(9)羽、幕別町14(9)羽、弟子屈7(20)羽、日高町7(0)羽、別海町6(16)羽、中標津町6(8)羽などとなっている。これを割合で示すと鶴居村の羽数が全体の35.5%(36.4%)を占め、10位までの市町村を合わせると全体の95.4%(94.8%)が記録されたことになる。なお、10位までの14市町村のうち、釧路管内の7自治体を合わせると722羽(846羽)、十勝管内の4自治体で119羽(129羽)、根室管内の2自治体で12羽(29羽)を示し、これまで同様に釧路管内への偏りが認められる。

B) 前年との比較を含めた今回の特徴

今年を目撃総数は、前年より158羽少なく、過去最多を示した一昨年と比べると314羽も少ない。

振興局別に前年と比べると、釧路-140羽、十勝-7羽、根室-22羽、オホーツク+4羽、日高+10羽、胆振-5羽、空知±0羽、石狩+2羽である。このうち、主要な生息地の釧路・十勝・根室の3管内の前年比は、それぞれ-16.2%、-4.9%、-59.5%といずれも少なく、特に羽数の多い釧路管内での減少が大きい。

そこで、釧路管内の市町村別状況を見ると、毎年最多羽数を記録している鶴居村では前年比で今年は66羽少ない17.1%減であり、釧路市では42羽の16.4%減、浜中町では19羽の44.2%減など、8市町村のうち6市町村で減少を示し、残り2町で10羽の増加を記録したに過ぎない。

さらに、冬期タンチョウが多数集まる中音別、阿寒24線、中雪裡、下雪裡、中茶安別（いわゆる5大給餌場）等の給餌場では、昨年を目撃合計が214羽であったのに対し、今年はわずか29羽である。このことは、まだタンチョウの多くが給餌場以外で餌を得ることが出来、人目につきにくいところへ広く分散し、そのため調査の網にかからず見過ごされた個体が多かったと考えられる。

なお、幼鳥数が前年より大幅に少なく、総数における割合も低い。越冬地への集合は若い非繁殖鳥などが早く、幼鳥連れの家族は遅い傾向がある。今年

は気象条件等で、分散して見つからずにいる家族も多いと想定されるので、繁殖状況等は第2回の調査結果を見てから触れたい。

最後に、以上に関わる要因として、今年の気象条件を挙げておきたい。今年の調査日における気象条件は、各振興局管内で採用した気象台・測候所の気温がすべてプラスであった（配布資料参照）。しかも十勝と宗谷を除き調査当日気温は5.8-9.9℃の高い範囲にあり、11月下旬からも、例えば釧路では平均4℃の高い気温が続き、かつ積雪もゼロであった。なお、2018年の調査日当日（12月5日）も宗谷を除きすべてプラスで、今年と同程度の気温であったが、記録羽数は今年より115羽も多かった。今年との違いは、11月下旬から気温が下がり、12月に入ってからマイナス気温が続き、それが調査の容易な給餌場への集合を促したと考えられる。したがって、調査日以前の気候条件もその年の調査成果に影響を与え、給餌場以外での採餌の難易が個体数と分布の状況に影響を与えよう。

III. 提言

調査法の改善

地球温暖化に伴い、12月の調査時点で給餌場へのタンチョウの集中が今年のように遅くなるが多くなると想定される。そのため、これまでのような調査区の設定と調査方法では分布の実態を捉えることが難しい。したがって、これまで繰り返し提言してきたように、一般地域住民参加の可能性を含めて、調査方法の見直しを次年度へ向けて始めなくてはならない。

児童生徒の参加

タンチョウは個体数増加に伴い分布域を広げつつあり、単に釧路市の阿寒町や鶴居村だけが、児童・生徒の調査参加の可能な場所なのではない。野生生物保護とその共存や、郷土の環境・自然の理解のために、この大型で優美な鳥は格好の手がかりを与えてくれる。このことを教育機関・関係者に理解してもらうため、次年度へ向けてプロジェクトを立ち上げるべきである。